

平成26年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
生徒の幅広い学習ニーズに対応する多様な教育活動を展開し、生徒が自主的・主体的となる授業を行うことで、生徒の思考力・判断力・表現力を育みます。	<p>ア 生徒の多様な学習ニーズに対応した多様な選択科目の特色を生かす、魅力ある教育課程の展開に努める。</p> <p>イ 将来を見据えた科目選択をする力を育成する。</p> <p>ウ 体験・発表を重視し表現力、判断力、思考力を育てる総合選択科目の編成を図る。</p>	<p>ア 生徒ニーズを踏まえた、教育課程や科目内容の検討が行われたか。</p> <p>イ 科目ガイダンスや相談体制を整え、履修指導が十分に行われたか。</p> <p>ウ 体験学習や発表等を重視した科目の編成や授業展開が図れたか。</p>	<p>ア 選択科目の整理・整頓を実施した。また、複数の教科で体験・発表を重視した学校設定科目を置くことができた。</p> <p>イ 進路行事等を通して、多くの生徒は進路意識を高められた。</p> <p>ウ 事業所訪問インタビュー、上級学校訪問、職業人インタビューなどで様々な進路・職業に触れ、生徒自身の進路を考えさせることができた。また、様々な機会に発表の場を設け、生徒の表現力・思考力の向上が図られた。</p>	<p>ア 生徒のニーズや総合学科にふさわしい選択科目をどのように設定していくか。また、地域の教育資源の活用をどのように具体化していくか。</p> <p>イ 1年次からの進路意識向上が必要である。また、進路行事に継続性、漸進性が必要である。</p> <p>ウ 発表への準備の過程で、生徒の取り組みにばらつきがある。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉等の特色ある授業があるにも関わらず、進路とのつながりが少ないのではないか。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒のモチベーションを上げるには、愛校心や誇りを持たせることも大切である。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒ニーズを踏まえた、教育課程や科目内容の検討を行い、選択科目を精選することができた。 科目ガイダンスや相談体制を整えると共に、進路行事の充実で生徒の進路意識を高めることができた。 様々な機会に発表の場を設け、生徒の表現力・思考力の向上が図られた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 広く情報収集に努め、その結果を各教科、系列に具体的な手立てを検討し、実行可能性を探っていく。 入学当初から進路について意識させるとともに、進路行事を1年次から段階的に進めていく。 生徒が発表などの準備に取り組みやすいプログラムを考える。
基本的な生活習慣の確立を図るとともに、社会の一員として求められるコミュニケーション能力を育むため、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな教育支援を進めます。	<p>ア 家庭の理解と協力を得ながら服装・頭髪・遅刻指導を行い継続的に指導する。</p> <p>イ 学校生活の様々な教育活動の中でマナーやモラルの向上を図り規範意識の確立を目指す。</p> <p>ウ 生徒相談体制の充実を図るとともに、情報の共有化に努め、適切で迅速な支援を行う。</p> <p>エ いじめの早期発見に努め、迅速に対応する。</p>	<p>ア 遅刻者数や頭髪指導件数が減少したか。</p> <p>イ 近隣からの苦情等が減少し、挨拶ができてきているか。</p> <p>ウ ケース会議や年次会が有効に機能したか。</p> <p>エ いじめ対策等検討会議が有機的に機能したか。</p>	<p>ア 生徒の意識の向上はあまり見られず、服装・遅刻・頭髪に関しては状況が改善できなかった。</p> <p>イ 日常生活におけるマナー、モラル、規範意識については大幅な改善は見られなかった。</p> <p>ウ 年次会等を通じ、生徒の情報交換等はうまく行われていた。問題に対しては組織的な対応が取れていた。</p> <p>エ いじめについてアンケート等を活用し、生徒との面談を通して大きな事態となる前に防ぐことができた。</p>	<p>ア 職員も含む学校全体の現状に対する危機感の向上を図る必要がある。</p> <p>イ マナーやモラルといったことに対する生徒の意識の向上をどのように図っていくか。</p> <p>ウ 年次を超えた情報交換などのさらなる充実を図っていく。</p> <p>エ ネットの利用方法等に関する指導の強化を図る。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活指導については、厳しい指導をして欲しいが、学校だけでなく家庭での指導が必要である。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶やマナーなどは新入生への導入教育が重要である。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立に向けて、指導を行ってきたが、継続的な一層の指導が必要である。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校全体での指導に対する意思統一を図る。また、保護者との連携を密にし、学校と家庭双方からの指導を強化する。 教育相談連絡会を活用し、学校全体での情報の共有化を進める。 掲示物やLHR等を活用し、生徒の意識の向上を図る。 講演会の実施や掲示物などによって、生徒の意識の向上を図る。

<p>将来の進路実現を見据え、学習意欲の向上と基礎学力の定着のため、教育課程の検討と共に、生徒のニーズに即した科目ガイダンスを再構築します。</p>	<p>ア 学習意欲を向上させ、基礎学力を定着させるカリキュラム編成を検討する。 イ 生徒主体の授業実践のための組織的な授業研究・授業改善を推進する。 ウ 科目ガイダンスの工夫を図り、生徒の実態とニーズに即した選択科目編成を図る。</p>	<p>ア 授業等の教育活動全般の満足度を向上できたか。 イ 組織的に授業研究・授業改善に取り組めたか。 ウ 積極的に取り組む生徒数は増加したか。</p>	<p>ア 新カリキュラムの定着と共に、基礎学力の定着を図るよう配慮した。 イ 1年次全クラスで研究授業を実施し、全職員による研修会で授業改善について検討した。授業研究等とおし、改善に取り組んだ。 ウ ガイダンス科目では、様々な出会いや授業形態を設定できた。生徒主体の授業の取り組みを進めることができた。また、生徒の成就感や良い面を評価していく取り組みを進められた。</p>	<p>ア 学習意欲を向上させ、基礎学力を定着させるために有効なカリキュラムとは何か。 イ 研究授業を通して浮き彫りになった課題等を日常の授業の中でどのように解決していくか。 ウ ガイダンス科目では、生徒主体の授業にしたときの生徒の取り組みにばらつきがある。また、行事の後の振り返りの時間がしっかりとれなかった。</p>	<p>(保護者) ・基礎学力は向上しているようだ。</p> <p>(学校評議員) ・組織的に行われており評価できる。</p>	<p>(学校評価) ・基礎学力の定着に向けて、研究授業を実施し、全職員による研修会で授業改善について、授業改善に取り組んだ。 ・ガイダンス科目では、様々な出会いや授業形態を設定し、生徒の成就感や良い面を評価していく取り組みを進められた。</p> <p>(改善方策等) ・他校の例も参考に、総合学科の特色を活かしつつ、学力向上のためのカリキュラムを模索する。 ・一人一人が授業改善を進めようとする意識を定着させる。 ・事前の指導の中で、生徒がやるべきことをしっかりと理解させてから臨むようにする。また、振り返りの時間を確保し、生徒の成就感を生徒同士で共有できるようにする。</p>
<p>総合学科の特性を生かし、キャリアガイダンスの充実を図り、生徒の個性や適性を伸ばし、生徒に望ましい職業観、勤労観を醸成します。</p>	<p>ア ガイダンス科目を通して学習の基礎力を育成するとともに、生徒の個性や適性、コミュニケーション能力の育成を図る。 イ 科目選択では、自らの進路、特性、興味関心について深く考え自己理解を深める取り組みを行う。 ウ 将来設計を考えるに当たり、様々な情報収集や職業体験を通じ、職業理解能力の育成を図る。</p>	<p>ア ガイダンス科目を通じて、個性や適性の理解が進んだか。 イ 自己に適した目標を設定できたか。 ウ 職業観の育成が図れたか。</p>	<p>ア ガイダンス科目を通じて、様々な出会いや授業形態、生徒主体の授業の取り組みから生徒のコミュニケーション能力、他者理解の伸長が見られた。また、適性検査の活用と基礎学力の向上に努めることができた。 イ 科目選択で、自らの特性や進路について考え、選択を進めることができた。課題研究で、外部からの学びを活用し、進路や生き方、あり方を積極的に考えさせる学習ができたが、時間が不足する場面もあった。 ウ 多くの生徒がボランティア活動への参加をしたが、インターンシップは参加について校内基準を厳しくした結果3名のみに減少した。大学等の進学に向け、模擬試験を実施したが受験者は少なかった。進路確定した生徒の数は増えている。</p>	<p>ア 行事に向けての事前指導や動機付けが、充分にできない面があった。年次ごと個々に進めているキャリア教育をまとめる必要がある。 イ 自らの進路のイメージを持っていない生徒が多く存在する。初めから積極的に行える生徒が少ない。また、自分の適性を把握できず、進路が絞りきれない。 ウ ボランティア活動は、単位取得が目的になり、本来の意義から逸脱している。</p>	<p>(学校評議員) ・インターンシップの参加者数が減少したのは残念である。生徒達の失敗をフォローする方向で考えて欲しい。 ・「産業社会と人間」で少数者の視点を学ぶことは非常に重要で、そこから社会における立場や様々な少数民族と社会との関係を理解するところまで進むと良いのではないか。 ・就職状況や社会全体の雇用状況が厳しい中、地元の労働現場などを通じて、現実的な進路や生き方を考える契機になるのではないか。</p>	<p>(学校評価) ・ガイダンス科目を通じて、生徒のコミュニケーション能力、他者理解の伸長が見られたが、行事の事前指導等に課題がある。 ・科目選択や外部からの学びを活用し、進路や生き方、あり方を積極的に考えさせる学習ができた。</p> <p>(改善方策等) ・その行事への動機付けや意義をしっかりと理解するよう事前のプログラムを検討する。校外活動へ積極的に参加する意義を様々な活動で学ばせる。「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」と合わせ推進していく。 ・進路決定に関する情報をしっかりと伝え、個々の生徒に対し、きめ細やかに対応する。 ・生徒のニーズに即した科目ガイダンスをさらに充実させる。 ・進路適性検査等を利用し、自身を客観的に捉える事が出来るようにする。 ・ボランティア活動の意義についてしっかりと様々な場面で伝えていく。</p>

<p>家庭や地域との協働・連携を通じ、地域の教育力を活用し、生徒のキャリア形成を促すと共に、地域・保護者に信頼される開かれた学校づくりを進めます。</p>	<p>ア 家庭との連携を密にし、三者面談等を通して生徒の状況の理解を深めながら、適切な学習支援・進路支援を行う。 イ 「産業社会と人間」「総合学習」「課題研究」において、地域や外部の教育力との連携を図る。 ウ PTA 活動を推進し、保護者の学校に対する理解と信頼を深める。</p>	<p>ア 家庭との連携を密にした生徒指導が行われたか。 イ 外部の教育力が有効に活用できたか。 ウ PTA 活動が活性化し、保護者の参加率が増加したか。</p>	<p>ア 面談等を重ねることで共通理解のもと進路実現に向けて指導を行った。電話連絡や学級通信を発行するなど、情報提供を積極的にできた。進路フォーラムや進路説明会をとおして情報提供や意識付けを行った。 イ 上級学校訪問、職業人インタビュー、上級生の課題研究発表会を通して、より広い視野を持つことができた。 ウ 体育祭・文化祭への一般参加が多く、PTA 役員、ボランティアの協力で盛り上げることができた。</p>	<p>ア 保護者理解を得られない場合がある。 学年懇談会の実施や学級通信の充実化を図っていく。 イ 校外学習の設定に今後工夫をする必要がある。体験の受け入れ先との調整に苦慮した。 ウ 教員の役割分担が多く、PTA との連絡が不十分であった。</p>	<p>(保護者) ・教員と PTA との連携を進めたい。 ・生徒会と PTA の接点があっても良いのではないか。</p> <p>(学校評議員) ・ネット社会でさまざまなトラブルが言われているが、学校でも指導をして欲しい。 ・防災に関して、コンビナートがあるため不安に感じている住民も多い。津波の防災拠点として頼りになると感じている。 ・きちんと食事をする(食育)も大切である。</p>	<p>(学校評価) ・学校と家庭との連携を密にし、三者面談等を通して生徒の状況の理解を深めながら、適切な学習支援・進路支援を行うことができた。 ・外部の教育力を活用し、生徒に広い視野を持たせることができた。</p> <p>(改善方策等) ・保護者、生徒共に面談、連絡を細かく行う。保護者あて通知等、生徒を通じて保護者へ行きわたるような指導を行う。 ・外部講師や企業の受け入れ先の開拓を図る。本校の行事の主旨をしっかりと伝え、意思の疎通を図りながら進めていく。 ・学校と PTA 間の事前連絡を徹底する。役割の軽減と明確化を図る。</p>
<p>様々な広報活動により、教育活動への理解度を深めると共に、信頼に根ざした学校づくりを推進します。</p>	<p>ア 学校説明会やホームページ、新しい情報端末を活用して教育活動や活動状況を積極的に発信していく。 イ 生徒の防災意識を高め安全対策を強化し地域と連携した防災体制に努める。 ウ 事故不祥事防止のために適切な研修計画をたて、円滑な学校運営に努める。 エ 会計処理の円滑かつ迅速な処理に努める。</p>	<p>ア ホームページのアクセス数や説明会出席者数が増加したか。 イ 地域との連携した防災実践が図れたか。 ウ 組織的・計画的に研修が行われたか。 エ 会計諸伝票が適正に作成されたか。</p>	<p>ア 教育活動、生徒活動の素材を収集しやすい環境づくりが進んだ。部活動では、積極的に発信している部活動等があった。 イ 消防署と連携した防災訓練の実施を行った。また、防災倉庫の整備を進めた。 ウ 書類等の整理・整頓を心掛けるなど事故防止に努め、一定の成果が得られた。各グループとの連携、協力がされ、全体業務の円滑化が図られた。また、円滑な研修計画を立てることができた。 エ 会計研修会を通し処理手続きの周知をした。また、会計伝票が適正に作成され、ほぼ円滑かつ迅速に処理された。</p>	<p>ア 情報の更新が遅れることがあった。また、まだ情報発信に積極的とは言えない状況であった。 イ 地域との連携した防災実践に取り組む必要である。 ウ 一部、事故防止の徹底が不十分な点が見られた。 エ 私費について未徴収金の件数が多い。実習費会計多く、会計処理の件数が膨大である。</p>	<p>(保護者) ・ホームページでは、部活動の様子がよく見られている。試合の予定やボウリング部など活躍している部活動などを掲載して、中学生が興味を持てるようにして欲しい。</p>	<p>(学校評価) ・学校説明会やホームページ、新しい情報端末を活用して教育活動や活動状況を積極的に発信していくことができた。 ・生徒の防災意識を高め安全対策を強化し地域と連携した防災体制に努めた。 ・事故不祥事防止のために適切な研修計画をたて、円滑な学校運営に努めた。 ・会計処理の円滑かつ迅速な処理に努めた。</p> <p>(改善方策等) ・職員全体への情報提供の呼びかけを行うとともに、定期的に発信していく。 ・地域との連携を考慮した防災計画を策定する。 ・グループ内での情報共有と引継体制の充実を図る。 ・会計については、監査の指摘を反映させたり、予算執行状況を把握して促す。また、こまめに記帳するなど基本を守る。 ・定期試験、調査書発行、入学者選抜等における事故防止は、一層の組織的な点検体制の図るとともに、時間に余裕をもち注意喚起に努める。</p>